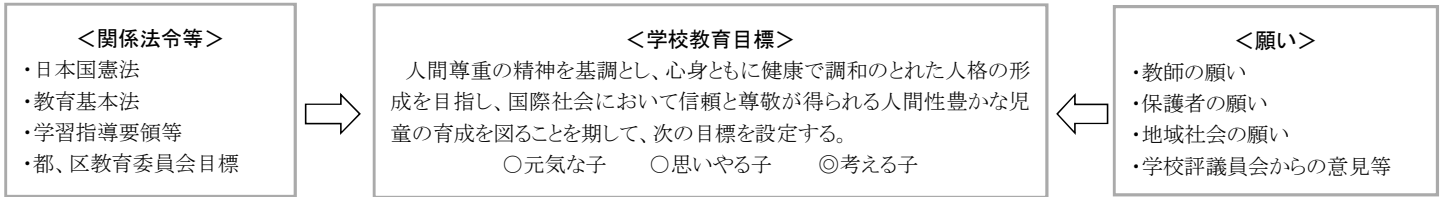


# 令和6年度 学力向上を図るための全体計画

小30 練馬区立光が丘春の風小学校



**各教科の指導の重点**

【国語】話し方、読み方、書き方の学習を充実させ、継続的に学習に取り組むことで確実に身に付けさせる。

【社会】映像や資料を活用した学習を通して、問題解決学習を深める。

【算数】児童が考える楽しさを味わえるように少人数指導の協働的指導を工夫し、実践する。

【理科】基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の充実、問題解決学習の定着を図る。

【生活】具体的な活動や体験、他との関わりを通し、自分自身の生活上に必要な習慣や技能、自立への基礎的な能力を育てる。

【音楽】音楽活動そのものを楽しみながら基礎となる活動を積み重ね、表現する力を育てる。

【図画工作】造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる。

【家庭】日常生活に必要な基本的な技能や知識の定着と個に応じた授業の工夫をする。

【体育】様々な運動を通して体力向上への意識を高め、児童が自主的に取り組めるようにする。

**学校経営方針(学力に関して)**

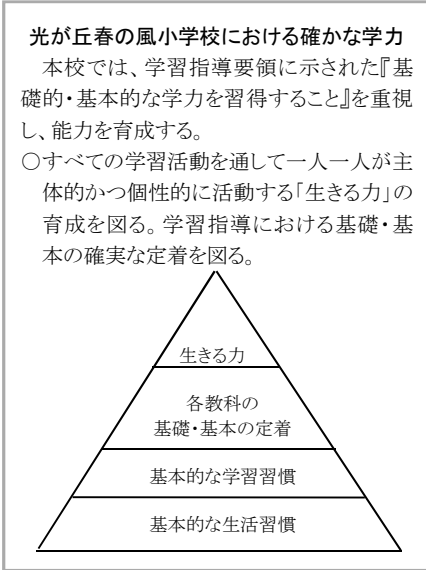
- 言語活動を重視し、学び合いの充実を図り、心身ともに豊かでたくましい児童を育成する。
- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、「確かな学力」を育む。
- 問題解決学習の充実を図り、主体的に取り組ませ、個に応じた能力を伸ばす。

**生活指導の重点**

- ・児童理解を深め、児童に目標をもって生活させ、その達成を支援し、個性の伸長を図る。
- ・基本的な生活習慣と礼儀正しい生活、人との関わりを通して、豊かな人間性を培う。
- ・「挨拶・安全・ありがとう」を心がけ、安全で心豊かな生活を送る。
- ・秩序ある集団生活により、自己統制力の育成に努める。
- ・児童の個性や能力を生かしつつ、集団への適応を図るとともに、適応力の育成に努める。

**総合的な学習の時間の指導の重点**

- ・地域の人材や資源を活用し、実体験の中で主体的に取り組ませる。身に付けた資質・能力を発揮することで、自己有用感をもたせる。
- ・栽培活動や地域調べ、国際理解やSDGsに関する活動等を通して、すすんで自然や人々と関わりを表現できる児童の育成に努める。



**道徳教育の指導の重点**

- ・全体計画および年間指導計画を基に、自己の生き方についての考えを深めさせるとともに、自他の生命を尊重する心や規範意識を培い、道徳的実践力を育てる。
- ・道徳教育推進教師を中心に校内研修に努め、東京都道徳教育教材集や練馬区道徳教材集を活用し、道徳教育の充実を図る。
- ・昨年度までの練馬区教育課題小中一貫教育の研究を基盤に、道徳に関する指導技術の向上を図り、自己の生き方について考えを深める児童を育成する。
- ・3学期に道徳授業地区公開講座を行い、保護者や地域に道徳教育の重要性についての理解を深める。

**外国語活動・外国語の指導の重点**

- ・一人一人が体験的に外国の言語や文化を学び、外国に対しての関心を高める。
- ・外国語に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。
- ・外国の言語や文化を学び、自分の国との違いを認識し、理解を深める。

**進路指導の重点**

- ・一人一人の能力や適性を正しく把握し、キャリアパスポートの活用をすすめ、自己の将来に希望や生きがいをもてるように指導・支援する。
- ・常に自分のよさや役割について意識させ、生きる力の指導に努める。
- ・6年は、授業参観や生徒会からの話等を通して中学校との連携を図り、児童や保護者の進学に対する不安をなくす。

**特別活動の指導の重点**

- ・心身の調和のとれた発達を目指し、集団の一員としての自覚をもたせ、自主的・実践的な活動を通して児童の個性の伸長を図る。
- ・縦割り班活動を行い、異学年集団の中での人との関わりを大切にし、豊かな心情を育てる。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫 ・教育環境の整備	校内における研究や研修の工夫 ・小中一貫教育の推進	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科では、少人数指導を実施し、学習形態や指導方法を工夫する。東京ベーシックドリルを活用し、習熟度に応じた指導や問題解決学習を推進する。</li> <li>・児童一人一人の学習状況を把握し、指導方法や進度に反映させる。</li> <li>・発展的な学習・補足的な学習をする取り組み(地域未来塾)を2、3学期に設定し、学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の学習形態を、児童の発達段階や実態に応じたものにしていく。</li> <li>・学習指導要領の趣旨や理念について理解し、指導計画や指導方法の工夫を図る。</li> <li>・全国・都学力調査の結果を分析し、高めるべき力を重点的に指導する。</li> <li>・タブレットやICT機器を活用した授業や課題を効果的に取り入れ、学力の向上や定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの小中一貫教育の研究で積み重ねてきた特別活動、道徳、特別支援について、指導方法を授業で実践していく。</li> <li>・中学校と共に作成した課題改善カリキュラムを小中一貫教育研究の成果や児童の実態に合わせて修正する。</li> <li>・主幹・主任教諭によるOJT研修を年間10回設定し、指導方法の改善に生かす。</li> <li>・研修の時間を存分に生かし、個々の研鑽を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の授業計画の中で、それぞれの単元における評価の計画を立てる。</li> <li>・学年間で単元ごとの指導内容や計画を話し合い、資質・能力面における評価の共通理解を図る。</li> <li>・児童一人一人に目を向け、個々の評価を踏まえた指導、支援を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分散参観による学校公開を年4回行い、道徳授業地区公開講座では全クラスで道徳授業の公開し、意見交換を実施する。</li> <li>・学校行事の保護者感想、学校評価等、外部評価を分析し、授業改善に活用する。</li> <li>・高齢者や障害がある方々、保護者等、地域の人々と連携を深めた学校づくりを推進していく。</li> <li>・学校便りやホームページで、本校の教育活動を積極的に家庭や地域に知らせていく。</li> </ul>